

2015

透析患者における PCI 治療後の血圧・EF 変化の検証

¹千葉西総合病院、²千葉西総合病院

林 貞治¹、大槻 直夢¹、畠山 優華¹、金澤 佑樹¹、富田 誠士¹、河中 平太郎¹、渥美 真紀¹、渡部 惇¹、二階堂 由美¹、金子 健二¹、倉持 雄彦²、三角 和雄²

【はじめに】透析患者は Intervention を施行する機会が多く、特に心疾患の合併は、透析中の血行状態に大きな影響がある。

【目的】透析患者の PCI 前後で、血行状態や EF の変化を検証する。

【対象及び方法】2014. 3. 25～2016. 2. 10 に当院外来通院中の透析患者で PCI を施行した 13 名（男性 9 名・女性 4 名・平均年齢 66.0±9.0 歳・平均透析歴 5.3 年・延べ治療件数 18 件）を対象に、PCI 前後の血圧・心拍数・EF の変化を検証した。

【結果】平均値にて PCI 前の透析前：透析後で比較したところ、血圧は 146/72 : 148/69・心拍数 76 回 : 69 回・EF 54.1% に対し、PCI 後の透析前：透析後の血圧は 146/73 : 145/70・心拍数 79 回 : 79 回・EF 50.8% と改善は見られず、有意差はなかった。EF が最も増加した患者は 7.2% であったが、低下した患者は 11.5% と大幅な悪化が確認された。しかし、EF が増加した患者は 10 名・低下が 5 名と、増加した患者が多く確認された。また、低下群の 5 名中 4 名が LAD 領域であった。延べ治療部位は RCA 13 件・LAD 7 件・LCX 1 件と RCA が多く、DM 罹患率は 100% であった。

【考察】当院の透析患者は定期的に心エコーや心電図検査をしており、早期発見にて PCI を施行している。そのため、全てが待機的 PCI であり、血行状態の影響が低かったと考える。

【結語】PCI を施行した患者全てが DM を罹患していたことから、食事管理やスクリーニングの重要性を再認識する結果となった。また、LAD 領域の治療で EF 低下が多数みられた。しかし、その原因は確認できなかったが、何らかの影響は否定できないため、更なる検証の必要性がある。